

平成20年2月22日

博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1945 号

学籍番号

氏 名 多崎 恵子

論文審査員

主 査(職名) 稲垣 美智子 (教授)

副 査(職名) 泉 キヨ子 (教授)

副 査(職名) 塚崎 恵子 (教授)

論文題名 Development of a self-evaluation tool for evaluation of nurse teaching styles in diabetes patient education—Identifying characteristics of teaching in actual practice by self-evaluation— 糖尿病教育における看護師の教育スタイル自己評価ツールの開発 —看護師が自己評価する実践の実態から証明する教育の特徴—

論文審査結果

論文内容の要旨

本研究の目的は次の2点である。1点目は、糖尿病教育に携わっている看護師の教育の特徴を識別する意識と行為の要素を看護師が自己評価することによって、看護師が行っている糖尿病教育の実態を明らかにし、仮説概念である看護師の教育スタイルを立証することである。2点目は、それを通じて「教育スタイル自己評価ツール」を看護師への教育介入の手段として確立することである。全国で糖尿病患者教育を実践している看護師を対象に、アンケート調査を実施した。

1次調査(n=1096)にて、糖尿病教育に携わっている看護師が自己評価する教育スタイルを調査した結果、『一般的知識を提供するスタイル』と『生活心情がみえているスタイル』の2つの特徴から説明された。前者が42.2%、後者が57.8%であった。わが国の糖尿病教育にかかわる看護師の教育の実態から、看護師の教育スタイルの視点が立証された。2次調査(n=400)では、別の被験者集団においても糖尿病看護に携わっている看護師の「教育スタイル自己評価ツール」の妥当性が検証された。看護師が自己の糖尿病看護を振り返り、教育スタイルという視点で自らの実践の意識と行為を具体レベルで把握する手段が見出された。この「教育スタイル自己評価ツール」は、今後、看護師への教育介入での活用が期待される。

審査結果の要旨

本論文は、看護師の行う糖尿病教育の特徴を教育スタイルの視点から分類することによってその普遍性を立証し、また教育スタイル自己評価ツールの妥当性を確認することによって看護師が自己の糖尿病看護を具体的に振り返る手段を開発したものである。看護師の教育スタイル、および看護師教育にかかわる自己評価ツールといった着眼点が独創的である。また研究手法は綿密であり、結果の信頼性・妥当性が評価できる。これらより糖尿病看護の発展に寄与する論文であると評価した。よって、本論文は博士(保健学)の学位として合格とする。